

令和8年度 中学校第3回入試を終えて

1月12日(月)、第3回入試を本校と所沢くすのきホールの2つの会場で実施しました。今回多くの受験生を迎えることができ感謝申し上げます。

入試シーズンが始まって3日間連続して受験された皆さん本当に疲れ様でした。連続した試験は体力的にも精神的にも大きな負担だったと思いますが、その中で挑戦し続けた皆さんの努力と頑張りに心から敬意を表します。

合格者の皆さん、おめでとうございます。

皆さんの努力が実を結び、素晴らしい成果を収められたことを心から嬉しく思います。
本校と共に学べる日を楽しみにしています。

残念ながら今回思うような結果が得られなかった皆さんへ。

試験で実力が発揮できずに「自分なんかダメだ」と思う必要はありません。むしろ、ここからが本当の勝負です。「念すれば花開く」という言葉のとおり、努力は必ず報われます。挑戦を続ける人こそ、未来を切り開く人です。自分を信じて、前向きに進んでください。

城北埼玉中学・高等学校

校長 森泉秀雄

2026年 第3回 中学入試 「国語」採点講評

一 漢字の読み書き、語句

スマートフォンの普及で手紙を書いたり、実際に私たちが文字を書く機会は減ってきました。勝手に変換してくれる便利ツールによって私たちの語彙力は減ってきてしまったのかもしれません。「書く」ことは「意味を理解する」に直結します。ぜひ、みなさんの「世界観」を広げていきましょう。

二 「しやすいの作りかた」（説明的文章）

物事の用途や楽しみ方に応じて「分ける」「分けない」を考える、そして常識にとらわれない臨機応変さ、柔軟性を持つべきという内容の文章でした。日常の中でちょっとした目配りやアイデアで生活に潤いが出ることもあります。皆さんも春から中学生です。そんなことも少しずつ意識してみてください。

二の問題はおおむねよく出来ていました。問2では「わくわく感」とは「何が起こるか分からぬ」と期待感から生まれるものであることに気づけば、解答は導きやすかったかと思います。

問10は少しまとめにくかったせいか、苦戦した跡が見られました。前半部分P2の3行目と後半部分の33行目の「つまり」に着目すると良い解答が作成出来たかと思います。

三「古池に飛びこんだのはなにガエル？」（文学的文章）

社会人のみならず、中高生でも人気のある稻垣栄洋氏の文章です。氏は農学博士として活躍の傍ら、自らを「みちくさ研究家」と称し幅広い活動をしています。俳句にも非常に造詣が深く、今回は少し違った視点で芭蕉の俳句を分析している文章を出題しました。

稻垣さんの文章は読みやすい中にも深みがあることで知られています。特に「生き物の死にざま」は感受性豊かな皆さんにぜひ手に取ってもらいたい逸品です。

三の問題も大方よく出来てはいました。問1は「季節」をきいていますが「季語」で答えた答案が若干ありました。問3のような問題では、傍線前後にある表現で、繰り返しの表現に着目しましょう。すると「固定観念」という語句が導き出せると思います。問4も同様に着目してみると迷わず解説できたと思います。問6は少し難しかったかも知れません。そのため、前もって(II)以降としました。これはさきほどどの傍線付近を探すのとは異なり、文章全体を見渡せる力をはかる一つ上のレベルの問題です。P5の空欄⑨のあとに「静けさ」と「静かさ」が並記されています。それぞれの主部を確認すれば比較的容易だったのではと思いましたが、正答率はそれほど高くありませんでした。問10は「不思議な世界観」の言い換えの問題です。「動と静」「生と死」という二つをまとめたのが、正解ですが、少し苦戦した受験生がいたようです。「世界」という語句に目を向けてもらえば容易に解けたかと思います。

お疲れ様でした。みなさんの頑張りは、解答用紙から私たち出題者・採点者にしっかりと伝わりました。私たちはみなさんを心から応援しています

国語科 林 亮介

2026年 第3回 中学入試 [数学] 採点講評

1 小問集合です。オーソドックスな問題が並んでいました。(3)仕事算, (4)食塩水, (5)流水算など, 長方形の面積や線分を用いる方法など基本的な解法を身につけましょう。(8)1組の三角定規の内角は図にはありませんが, よく出来ていました。(9)円が通ったあとの図形でくり抜かれる部分は正方形になります。

2 図の上で考えていくのは難しいと思うので、樹形図を書いて考えるのがいいかもしれません。(1)0からスタートして3秒後に0にいる方法と、(2)0からスタートしてまず3秒後にAにいる方法が異なります。ここに気づいて3秒後のAから6秒後の3秒間で0にいる方法を考えましょう。(3)は(1), (2)の誘導が見えた人には自然な流れで見えたのではないでしょうか。

3 5行6列までの数字の和が60になることに注目します。

(3)83行目までの総和が993になります。したがって、84行2列目までの総和が初めて999をこえます。

4 相似な図形を見つけて相似比を用いて求めましょう。

(3) 三角形BEDから三角形EFGの面積を引いて求めることができます。
正答率も高く、比較的易しい問題のようでした。

受験生の皆さんにとってはまだまだこれからが正念場だと思います。寒い日が続きますが、健康に気を付けて最後の最後まで頑張ってください。健闘をお祈りします。また、4月に再会できた時には喜んでお迎えします。

数学科 池上 雅史

2026年 第3回 中学入試 「社会」採点講評

大問1 地理分野

関東地方に関する基本的な内容の出題でしたが、次に挙げる2題を正解できると、合格により近づいたようです。

問4は、神奈川県の県庁所在地ではない政令指定都市である川崎市と相模原市の2つを答える問題でした。川崎市・相模原市ともに、漢字の誤りや字が乱雑で判読できない解答が見られたほか、「横浜市」と答えている受験生多くいました。問題文を正確に読み取ること、また字を丁寧に書くことを日頃から意識しましょう。問6は、中学入試ではおなじみのグラフの読み取りに関する問題でした。このような問題では、単なる知識の暗記ではなく、身につけた知識をどのように活用するかが問われます。学習を通じて得た知識を、さまざまな問題に応用できる力を養っていきましょう。そのためにも、問題演習を繰り返し行い、多様な出題パターンに触れることが重要です。実践力を高め、今後の学習に役立ててください。

大問2 歴史分野

歴史分野の出題では、単なる語句暗記ではなく、覚えた用語が時代・出来事・人物などと関連して理解できているかを問うことが多いです。特に語句組み合わせや文章正誤は、正確な知識を要求されます。用語の暗記に終わっている人は、問題演習を重ねることにより覚えた知識を正確に活用する練習をしましょう。本校の社会の入試は解き直し・過去問演習をすることにより、得点が上がるように出題されています。第2回でも「菅原道真」を出題しました。また、「埴輪」「後醍醐天皇」などは過去問を解いていた受験生は既視感があったのではないかでしょうか。資料・写真を活用することを含めて、用語の暗記に留まらずに知識を正しく整理して学習しましょう。まだまだ中学入試は続きます。解き直しをしっかりやって、1月後半、2月の入試に臨んでください。

大問3 公民分野

政治分野から経済分野まで幅広く出題しました。受験生の皆さんのが苦戦した問題のなかで、是非、見直しておいてほしいのが問11と問8です。問11は日本のGDPと国の借金の総額についての問題です。まだ実感が湧かないかもしれません、日本という国で生活するうえでは知っておきたい知識です。問8は「パレスチナ」を答える問題ですが、中東情勢はイスラエルのパレスチナ侵攻によって緊迫しています。入試頻出事項でもあり、本校の第1回入試でも高度経済成長期の終わりの理由として「石油危機」を起こした中東情勢を出題しました。

問9では紛争地域つながりでロシアを答えさせました。原油や天然ガスの埋蔵量、紛争状態にある国は国際的な催しへの参加が制限されることをヒントに解答を導けた受験生は学習の成果が出せていたと思います。トランプ大統領による米国の通商政策は、世界経済に大きな影響を与えています。関税をかけて自国の産業を守ることから「保護貿易」といいます。トランプ大統領は環境問題にあまり関心がないようですが、中学入試では頻出事項です。「循環型社会」という言葉が出てこなかった受験生の人は、カタカナ語だけでなく、日本語では何というのかまで学習すると、より高いレベルの知識になります。

問5では設問文の条件をよく読んで考える問題でした。「産業活動や人々の暮らしへの影響も考慮する」と、火力発電所をすべて閉鎖すると人々の生活に大きな影響がでます。電気のない生活になるかもしれません。条件にあった解答をするように心がけましょう。

社会科 鈴木 義仁

2026年 第3回 中学入試〔理科〕採点講評

1 (物理分野)

乾電池のつなぎ方についての問題でした。

問1 乾電池のプラス→電球やモーターなど→乾電池のマイナス の順にたどれるようにつなぐべきですが、「力」のつなぎ方では乾電池のプラスからマイナスへ直接つながってしまい、モーターを通らぬことで大きな電気が電池に流れてしまい、発熱するなどして危険です。このようなつなぎ方は「ショート回路」といい、やってはいけません。よって、(1)の答えは カ , (2)の答えはB です。

問2 乾電池のプラス→電球やモーターなど→乾電池のマイナス の順にたどれるようにつなぐべきなので、あてはまらない 才 が答えです。

問3 ア は2つの乾電池のプラスから出た線が交わってからモーターにつながり、モーターを出た線が分かれて2つの乾電池のマイナスにそれぞれつながります。線をたどってみて同じ道すじになるものはつなぎ方が同じなので、モーターの回る速さも同じです。よって、答えは ウ です。

問4 乾電池が直列につながっていると、片方の乾電池を外すと道すじがとぎれてしまい電気が流れません。乾電池が並列につながっていれば、片方の乾電池を外しても道すじは1周つながったままなので、モーターは動きます。よって、答えは ア と ウ です。

問5 電気を一時的にためられる部品はコンデンサーです。乾電池は電気をためているのではなく電気をつくるものなので、使用済みの乾電池をつないでも電気はためられません。よって、答えはA です。

2 (化学分野)

それぞれの物質の水へのとけ方に関する問題でした。

6種類の物質を水に溶かした結果、次のように分類できます。

水に溶けたもの (①・②・③) 砂糖・ホウ酸・食塩、水に溶けなかつたもの (④・⑤・⑥) 銅・アルミニウム・卵の殻。これをもとに、各問い合わせる問題でした。

問1 とけたものととけなかつたものを分けるために行う操作を答える問題でした。

ろうとろ紙を使って行う過で、ほとんどの人が正しく答えられていました。

問2 発生した気体Aと気体Bを考える問題でした。

気体A：銅・アルミニウム・卵の殻のうち、水酸化ナトリウム水溶液に反応するのは、⑤アルミニウムで発生する気体は水素 H_2 です。

気体B：とけ残った④・⑥のうち、塩酸と反応するのは⑥卵の殻で、発生する気体は二酸化炭素 CO_2 です。

問3 気体Aと気体Bの性質についての問題でした。

それぞれの選択肢がどんな気体を説明しているのかは理解しておきましょう。

ア 空気中の約80%を占めている。 →窒素 N_2

イ 火をつけると青色の炎をあげて燃える。 →水素 H_2

ウ 無色でにおいもなく、空気より重い気体である。 →二酸化炭素 CO_2

エ 水に非常にとけやすく、水溶液はアルカリ性である。 →アンモニア NH_3

オ 金属をさびつかせる性質を持っている。 →酸素 O_2

これより、気体Aの水素はイ。気体Bの二酸化炭素はウでした。この問題もよくできていました。

問4 6種類の物質を分類する問題でした。

問2より、④銅・⑤アルミニウム・⑥たまごの殻が決まっています。水にとけた①・②・③(砂糖・ホウ酸・食塩)について、加熱して黒くなるのは①砂糖、図の結晶が正四面体のものは③食塩です。したがって、②はホウ酸となり、答えはイです。

問5 ホウ酸の溶解度に関する問題でした。

80°Cの水120gにとけるホウ酸の最大量は、 $23.5 \times 1.2 = 28.2\text{ g}$ です。40°Cまで冷やしたときにとけられている量は、 $8.9 \times 1.2 = 10.68\text{ g} \approx 11\text{ g}$ となります。

3 (生物分野)

こん虫に関する問題で、基本的な語句や知識を問うものが多かったので、全体的に正答率も高くなりました。

問1 こん虫のからだは、頭部・胸部・腹部に分かれています。頭部に1対の触覚、胸部に6本の足と4本の羽(例外あり)があります。これにあてはまらないものが「カタツムリ」と「クモ」です。

問3 「ふ化」とは、鳥や魚なども含めてたまごからかえることをいいます。一方で「う化」は、さなぎから成虫に変化することで一部の昆虫にしか使われません。あまり聞きなじみがなかったかもしれませんのが、知っておいてほしい語句になります。

問4 「セミ」を選んでいた人も多かったですが、セミの抜け殻は「さなぎ」ではないので気をつけましょう。カイコガのまゆから糸が作られることは、知っている人も多かったのではないでしょうか。

4 (地学分野)

人工衛星等の問題

理科で学ぶことは、科学技術の基礎になります。今回の問題は、宇宙開発や地球環境に関する内容で、身近な現象と最先端技術がつながっていることを実感できる構成です。興味・関心を持って学ぶことで、理科の知識がより深まります。

問1 割合の計算問題です。50回のうち49回は成功したので、成功率は $(49 \div 50) \times 100 = 98\%$ と計算でき、答えは 98% となります。

問2 ものが燃える(燃焼する)ためには、空気中の「酸素」が必要です。ロケットが高い場所まで上がると、空気がとても薄くなり、酸素も少なくなります。そのため、ロケットは「酸素」と、燃やすための他の燃料(たとえば水素など)を自分で積んで、これらと一緒に燃やして進む力を得ています。よって、答えは イ となります。

問3 ロケットは、燃料を強い力でうしろにふき出すことで、その力で前に進みます。

風船の口をはなすと空気が出て、風船が飛んでいくのと同じしくみです。また、ホースで水を強く出すと、ホースがうしろに動くことも同じです。

よって、答えは イ と ウ になります。

問4 この衛星について知らなくても、「温室効果ガス（地球をあたたかくするはたらきがある気体）」や「水の循環（地球上で水がいろいろな場所を移動すること）」を調べるための衛星だと書かれているので、そこから答えを考えることができます。たとえばゲリラ豪雨などの異常気象は、地球温暖化や水の循環の変化と関係があると考えられています。温室効果ガスの増加による地球温暖化が気候変動を引き起こし、その結果として極端な気象現象が増えることが指摘されています。このような気候変動を正しく把握するためには、温室効果ガスや水の循環を観測することが重要だと考えられますので、答えは ア となります。

問5 水の循環では、海の水が太陽の熱であたためられて「蒸発」し、水蒸気となって空にのぼります。空の高いところで冷やされると、水や氷の小さな粒になり、それが集まって雲になります。雲の水や氷の粒が成長しきくなるとやがて雨や雪になって降ってきて、地面にしみこみます。地面にしみこんだ水はやがて流れ出し、川となって海へ戻ります。よって、答えは (1)ア (2)エ (3)オ となります。

問6 問5の水の循環を考えると、海水があたためられないと循環が始まいません。海の水が蒸発して空にのぼるためにには、太陽の熱（エネルギー）が必要です。太陽の光が海水をあためることで、水が水蒸気になり、循環が始まります。よって、答えは ア となります。

理科 藤野 博行